

日本鉱物科学会 平成26年度第3回 定例評議員会議事録

日時：平成27年9月25日(金)18:00-20:30

会場：東京大学本郷キャンパス構内理学部1号館3階331室

評議員会出席者：

会長：小山内康人、副会長：土山 明
評議員：阿部なつ江、井上 徹、上原誠一郎、黒澤正紀、
小暮敏博、下林典正、高澤栄一、土谷信高、
長瀬敏郎、中村美千彦、安東淳一、池田 剛、
大和田正明、河上哲生、川本竜彦、平賀岳彦、
宮脇律郎、吉朝 朗、赤坂正秀、永井隆哉、
榎並正樹
委任状：土屋範芳、柳澤教雄、片山郁夫、木村純一、
本間 寿、宮嶋 敏、坂本尚義
欠席者：杉山和正、廣井美邦

報告者出席：

庶務幹事：永井隆哉
会計幹事：中村美千彦
行事幹事：黒澤正紀
和文誌編集幹事：木村 眞
英文誌編集幹事：平島崇男
渉外幹事：井上 徹
広報幹事：伴 雅雄
Elements 幹事：井上 徹
特務幹事(会則・内規検討担当)：川本竜彦
特務幹事(対外雑誌担当)：大谷栄治
特務幹事(法人化対策担当)：大和田正明
会計監査委員：加々島慎一
三鉱連絡委員：永井隆哉、黒澤正紀
選挙管理委員会：中野伸彦
地惑連合連絡担当：大谷栄治、黒澤正紀
行事委員会委員長：黒澤正紀幹事
GKK編集委員会委員長：木村 眞幹事
JMPS編集委員会委員長：平島崇男幹事
渉外委員会委員長：井上 徹幹事
広報委員会委員長：伴 雅雄幹事
Elements委員会委員長：井上 徹幹事
将来企画委員会委員長：土山 明委員長
会則内規検討委員会：川本竜彦委員長
2016年Goldschmidt 担当 鍵 裕之委員
教育普及委員会 委員長：奥山康子委員長
新鉱物・命名・分類委員会委員長：宮脇律郎委員長
法人化準備WG委員会：大和田正明委員長
2016年年会運営委員会：奥野正幸委員長
鉱物科学に関する用語検討委員会：宮脇律郎委員長

会議に先立ち、河上哲生評議員が書記に選出された。

1. 報告事項

1. 会員報告(佐藤会員幹事 代理永井庶務幹事)

平成26年度第2回評議員会以降の会員動静について、永年会員2名、シニア会員1名のご逝去、シニア会員4名一般正会員9名、学生正会員3名の退会、一般正会員1名の復活、一般正会員8名、学生正会員25名の入会があったことが報告された。また、平成27年度からの永年会員2名の報告があった。転居先不明者1名。一般正会員3名が除名された。会員数の遷移について報告があった。

2. 広報報告(伴広報幹事)

学会事務連絡、公募案内、関連学会案内など会員へのML送信を24件実施した(2014年は32件)。連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応として、1. 学会発行の科学雑誌、年会、表彰、入会案内、2. 学会会員の執筆した書籍の展示・紹介、3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介ポスター、4. 「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター、YMO集会パンフレットの紹介、を行った。また、ホームページを逐次更新した。「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターを今年は新たに地学オリンピック選考会で配布した。今後、さらに印刷する必要がある場合に今回同様、特別会計から拠出するか否かは検討する。

3. 渉外報告(井上渉外幹事)

- 2012日本地球惑星科学連合大会(2012JpGU)から始めた鉱物科学会ブースにおける「本学会会員執筆書籍の展示」は、2015JpGU、及び今回の日本鉱物科学会2015年年会へと引き継ぎ行われている旨、報告があった。尚、前回の2015JpGUまでに献本された本は28冊であり、今回1冊献本され、29冊となった。
- 講談社サイエンティフィク「鉱物科学」については来年度春頃に刊行予定であり、「鉱物と宝石の事典」は来年8月刊行予定で校正中、との報告があった。

4. 和文誌(GKK)編集報告(木村和文誌幹事)

平成27年9月25日(金)16:30-17:00に開催された2015年岩石鉱物科学編集委員会の内容について報告があった。

- 編集状況報告：(1)9月18日現在、平成26年度中に発行された岩石鉱物科学43巻5号(9月号)~44巻4号(7月号)の掲載件数と頁数は次の通り。原著論文10件163p、短報2件10p、資料・解説9件72p、訂正1件1p、新刊紹介6件3.25p、ニュース(他学会案内、教員公募等)4.25p、投稿規定3p、学会記事(評議員会・総会議事録、連合ニュース等)37.5p、2015年会案内・プログラム25p、総目次2p、広告14件8p、白頁3p、合計332p。(2)発行・編集状況：44巻4号(7月号)発行済み、電子ジャーナル8/30公開 冊子8/30発送完了。44巻5号(9月号)掲載予定：受理論文4編。(3)現在査読中論文：4編。その内受理予定0編。
- 特集号「岩石-水相互作用の研究の発展と鹿園直建先生」(ゲストエディター：藤本光一郎、奥山康子、土屋範芳)状況報告：7編中3編受理、4編査読中。
- 岩石鉱物科学の活性化のためメール審議決定内容の再確認と現状報告。依頼原稿内容の変更、新規規定についての決定内容に従い投稿規定、編集規則を一部変更し、依頼原稿とりまとめ世話人が紹介された。
- 編集委員会体制：委員退任：三浦裕行、豊田和弘(学会退会による)、新委員 野口高明。

5. 英文誌編集報告(平島英文誌幹事)

平成27年9月25日(金)16:30-17:30に開催された2015年第2回JMPS編集委員会の内容について報告があった。

- JMPS状況報告：(1)9月18日現在、平成26年度中に発行されたJMPS 109巻5号(10月号)~110巻4号(8月号)の掲載件数と頁数は6号分での次の通り。Article 20件 212p、Letter 10件52p、Technical 1件7p、Editorial 1p、投稿規定5p、Index 4p、Contents 4p、白頁1p、合計286頁。(2)発行状況：110巻5号(10月号)原著論文2編、Letter 1編 他受理原稿待ち。(3)編集状況：2015年9月18日現在：査読中論文68編、受理18編、不受理24編、査読中16、返却中5編、AE担当返事待ち2、取り下げ3。2014年9月15日から2015年9月18日まで(カッコ内数字は昨年、一昨年の数字)：総投稿数68(50,40)編、通常原稿56(34,28)編、年会Letter12(16,12)編 [うち海外投稿数34(14,9)編]。(4)2014年JMPSインパ

トファクター0.742 (昨年0.656) (5)電子ジャーナルアクセス状況報告。(6)編集委員の交代: 田村芳彦委員辞任(学会退会のため)

- 2) Special Issue状況報告: 7件の投稿があり, 更に5件投稿予定との報告があった。
- 3) 2015年年会講演を対象にLetter を募集中である(投稿申込締切: 2015年10月7日)。Letter企画の対応再確認があった。原則刷上り4頁以内, 最大6頁以内, 極力WEBサイトへのdepositは避けること。depositが多い場合はOriginal Articleへ変更する場合もある。
- 4) 投稿のお願い
- 5) 継続審議 (1) ページチャージ割引クーポンの具体的な実施に向けての具体案再確認 (2) 「学術論文に政治的問題を持ち込ませない」基本方針の投稿規定への明文化 (3) 新委員提案 (4) 投稿論文増加の対応案紹介

6. 庶務報告(永井庶務幹事)

平成26年度第2回評議員会以降のメール発信は, 評議員会関連9件, 連合への対応7件, 会員への連絡10件を行った。特に法人化については, 2015/06/21に「法人化に向けてのお知らせとご意見ご質問のお願い」と2015/08/16に「法人化に向けて(2)説明とQ&Aのお知らせ」を会員に配信, 一部郵送で通知した。共催1件, 協賛3件について報告があった。

7. 行事報告・年会報告(黒澤行事幹事)

現在2015年9月25日(金)から27日(日)まで東京大学本郷キャンパスにて日本鉱物科学会2015年年会・総会が開催されていること, 2015年連合大会が2015年5月24日(日)から5月28日(木)の期間, 幕張メッセで開催されたこと, 日本鉱物科学会2016年年会・総会が, 2016年9月23日(金)~25日(日)に金沢大学自然科学研究科等で開催される予定であり, また2017年は愛媛大学で開催予定であるとの報告があった。

8. Elements報告(井上Elements幹事)

Elements Society Newsについて, 2015年度はNo. 4, 8月号~No. 5, 10月号までが対応済みで, No. 6, 12月号についても現在編集集中であるとの報告があった。また, Elements住所氏名不一致送付の件についてElements側とのやり取りについて報告があった。

9. 次期評議員選挙報告(中野選挙管理委員)

次期評議員選挙結果について, 以下のような報告があった。
評議員: 任期3年: 10名

(平成27年9月26日総会終了後~平成30年総会終了まで)
大藤弘明, 鍵裕之, 貴治康夫, 佐藤努, 角替敏昭,
永嶋真理子, 濱本拓志, 平島崇男, 宮島宏, 森下知晃
(以上五十音順)

次点: 石川正弘

総投票数: 166票 (WEB投票147, 郵送投票19)

無効投票数: 0票 (WEB投票0, 郵送投票0)

正会員立会人(2名): 長瀬敏郎, 宮本毅

10. 将来企画委員会報告(土山委員長)

平成27年9月24日17:30-19:00に開催された第15回将来企画委員会において議論された, 法人化, 2017年他学会との合同開催検討, 法人化に向けた会員種の見直し, 年会講演要旨集の冊子出版維持などについて報告があった。

11. 特務幹事(法人化対策担当), 法人化準備WG委員会報告 (大和田特務幹事)

平成27年9月24日16:00-17:30に開催された, 法人化準備WGで

議論された以下の内容の報告があった。(1) 法人化の目的および法人化に向けたスケジュール, (2) 法人化後の会員と運営体制について, (3) 法人化後の年会・総会について, (4) 法人化後の組織について, (5) 法人化後の選挙について。

12. 特務幹事(会員増対策担当)報告

(片山特務幹事, 代理永井庶務幹事)

今年度からポスター発表に加え口頭発表も審査対象となり新たに選考委員会も発足した「研究発表優秀賞」は口頭発表も多くの申込みがあり, 選考作業も含め順調に機能しているとの報告があった。

13. 地惑連合報告(大谷連合連絡委員)

地惑連合の動きについて以下のような報告があった。(1) 9月14日締め切りで代議員の自薦と推薦の受付が行われ, 今後代議員選挙になる。(2) 10月15日締め切りで2016年連合大会のセッション提案が行われている。2016年連合大会のプログラム委員長は熊本大学の西山忠男教授。英語による国際セッションも申し込むことを求められている。2016年の連合大会は15程度のセッションをAGUとジョイントで行う予定。(3) 連合大会のさらなる国際化とサービスの向上, 事務局の加重労務の改善のために参加費の値上げが検討されている。

14. 特務幹事(対外(JpGU)雑誌担当)(大谷特務幹事)

JpGUの雑誌Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)についての現状報告があった。来年にはインパクトファクターの結果が示される。

15. 学術会議報告(大谷学術会議連携委員)

(1) 第23期学術会議地球惑星科学委員会, (2) 第23期IMA分科会, について報告があった。

16. 三鉱連絡会報告(永井委員)

WEB版「三鉱学会共通名簿」を平成27年9月1日に公開した旨, 報告があった。

17. 教育普及委員会報告(奥山委員長)

JpGU教育検討委員会をベースに, 次期学習指導要領下でも地学履修率が一定水準を達成できるよう, 指導要領改訂に向けた議論を継続した旨, 報告があった。

18. 博物館委員会報告(坂野委員長)

北川隆司鉱物コレクション巡回展の継続が予定されている旨, 報告があった。開催場所・日時は, 福井県立子ども歴史文化館10月17日~11月29日, 石川県立自然史資料館2016年7月~12月, 和歌山県立自然博物館2017年2月中旬~3月。JAMSが共催や後援あるいは協力団体等となる予定。

19. その他の報告

1) 2016年9月23日(金)~25日(日)に金沢大学で開催される2016年年会の詳細な開催状況報告が奥野LOC委員長からあった。

2) 2016年6月26日(日)~7月1日(金)にパシフィコ横浜で開催される2016年Goldschmidt日本開催状況報告が鍵会員からあった。

3) 研究発表優秀賞選考委員会状況報告が片山委員長(代理永井庶務幹事)からあった。

4) 鉱物科学に関する用語検討委員会宮脇委員長から報告があった。

II. 承認事項

1. 会員承認 (佐藤会員幹事 代理永井庶務幹事)

- 1) 以下の正会員8名、学生正会員25名の入会申込書が回覧され、入会が承認された。また永年会員への移行2名(松尾源一郎、岡田嘉夫)が承認された。議決により3名が除名となり、転居先不明者1名の報告があった。また、復活が1名(蛭名武雄)あった。

入会承認 (合計33名) (入会申込書別添え)

<一般正会員 8名>

氏名	勤務先	紹介者
宇野 正起	東北大学大学院環境科学研究科	岡本 敦
新名 良介	東京工業大学地球生命研究所	宮島延吉
角野 浩史	東京大学大学院総合文化研究科	鍵 裕之
豊田 丈紫	石川県工業試験場	佐々木聡
瀬尾 公一	スペクトリス株式会社	三宅 亮
重野 未来	北九州市立自然史・歴史博物館	森 康
山本 伸次	東京大学大学院総合文化研究科	石川 晃

ABBOU-KEBIR Khadidja
京都大学附属地球熱学研究施設 川本竜彦

<学生正会員 25名>

会員氏名	在学先名	学年(申込時)	指導教員
藤原あずさ	広島大学大学院理学研究科	M1	安東淳一
柿澤 翔	愛媛大学大学院理工学研究科	M2	井上 徹
鈴木 理沙	山口大学大学院理工学研究科	M1	永嶋真理子
秋田 幸穂	山口大学大学院理工学研究科	M1	永嶋真理子
高塚 紘太	京都大学大学院理学研究科	M1	河上哲生
田村 知也	筑波大学大学院生命環境科学研究科	M2	興野 純
加藤 正人	筑波大学大学院生命環境科学研究科	M2	興野 純
横大路美帆	筑波大学大学院生命環境科学研究科	M2	興野 純
徳永 紘平	広島大学大学院理学研究科	D2	高橋嘉夫(非)
蔵谷 樹	島根大学大学院総合理工学研究科	M2	高須 晃
KASYMBEKOV Adil	島根大学大学院総合理工学研究科	D1	高須 晃
大野 遼	東京大学大学院理学系研究科	M1	三河内岳
井上 優	東京大学大学院理学系研究科	M1	三河内岳
林 綾華	岡山理科大学大学院理学研究科	M1	小林祥一
木村 皐史	東京大学大学院理学系研究科	M1	小澤一仁
増田 理沙	岡山理科大学大学院総合情報研究科	M1	西戸裕嗣
犀川 雄二	熊本大学大学院自然科学研究科	M1	石丸聡子
小倉 和樹	高知大学大学院総合人間自然科学研究科	M1	川畑 博
浅野奈津子	愛媛大学大学院理工学研究科	M1	大藤弘明
藤田和果奈	東北大学大学院理学研究科	M1	中村美千彦
木戸 正紀	東北大学大学院理学研究科	M1	長濱裕幸(非)
末善 健太	東京大学大学院理学系研究科	D2	平賀岳彦
谷部 功将	東京大学大学院理学系研究科	D1	平賀岳彦
有賀 成高	ウイーンインターナショナルスクール	高1	高1
			佐藤 努
中村 隆太	京都大学大学院理学系研究科	M2	土山 明

- 2) 上記承認後の平成27年9月25日現在での会員数は941名(一般正会員653名、シニア会員155名、学生正会員88名、永年会員39名、名誉会員6名)となり、賛助会員、購読会員を含む団体登録は167件、総数1,108件である。以上から、平成26年度中増数内容は、入会一般10名+入会学生26名+復活1名となり会員増合計37名。一方、平成26年度中減数内容は、物故6名+退会38名+不明1名+除名5名となり会員減合計50名。以上から、平成26年度会員は昨年度より13名減少した。

2. 平成26年度会計決算報告 (中村会計幹事)

別表の通り平成26年度会計決算と特別会計決算の報告が中村会計幹事よりあった。また昨年の会費納付率低下傾向は改善され、従前のレベルに戻りつつあるとの報告があった。

1) 日本鉱物科学会平成26年度会計決算報告(後頁表1)

2) 日本鉱物科学会平成26年度特別会計決算報告 (後頁表2)

3. 会計監査報告と承認 (加々島会計監査委員)

平成27年9月15日に加々島・後藤両会計監査委員による平成26年度一般会計と特別会計の会計監査が行われ、帳簿類、会計内容とも健全に処理されていると加々島会計監査委員より報告された。これを受けて平成26年度一般会計と特別会計決算報告は承認された。

4. 総会 次第 案 (永井庶務幹事)

平成26年度総会次第案が提示され、質疑の後、承認された。

総会次第

一、開会

一、議長選出(司会：会長挨拶) 定足数の確認

一、物故会員への黙祷

一、報告及び承認事項

1. 平成26年度事業報告(会員、広報、渉外、編集、行事、庶務、Elements、将来、法人化準備WG委員会、会員増対策、など)

2. 平成26年度会計決算報告

3. 会計監査報告と承認

4. 次期評議員選挙結果報告

5. その他

一、審議事項

1. 法人化について

2. 平成27年度事業計画

3. 平成27年度予算について

4. 名誉会員について

5. その他

一、日本鉱物科学会賞授与

一、渡邊萬次郎賞授与

一、日本鉱物科学会論文賞授与

一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与

一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与

一、櫻井賞授与

一、日本鉱物科学会表彰授与

III. 審議事項

1. 日本鉱物科学会の法人化について総会提案内容の確認

(大和田特務幹事)

法人化にかかる総会への提案内容について説明が行われ、質疑応答の上、審議承認された。

2. 平成27年度会計予算案について (中村会計幹事)

日本鉱物科学会平成27年度一般会計予算案と平成27年度特別会計予算案が提示され審議の結果、承認された。なお、総会で法人化が承認された場合、法人化費用を一般会計予算案に計上することが承認された。

1) 日本鉱物科学会平成27年度会計予算 (後頁表3)

2) 日本鉱物科学会平成27年度特別会計予算 (後頁表4)

3. 継続審議

- 1) JMPSページチャージ割引クーポンの具体案(平島JMPS委員長)
以下のようなページチャージ割引クーポン制度を、準備でき次第10月より実施することが承認された。
「査読・受理後に英文校閲が必要無いと判断された場合、次回投稿の際に使用できるページチャージ割引券(30%)を経費負担者に発行する。割引券の有効期限は2年以内とする。」
- 2) 「学術論文に政治的問題を持ち込ませない」基本方針のJMPS投稿規定への明文化について説明があった。
- 3) 「外国人留学生学生会正会員の帰国後のサポートに関するガイドライン」について(佐藤会員幹事 代理永井庶務幹事)
ガイドラインの再検討案をもとに、年会費の額などについて議論され、継続審議となった。
4. 「日本鉱物科学会表彰に関するガイドライン」について
(永井庶務幹事)
日本鉱物科学会表彰に関するガイドライン(案)が提示され、承認された。
 1. 本学会は、日本鉱物科学会運営細則第39条に規定された、鉱物科学ならびに学会活動への特別な貢献が認められた個人あるいは団体に対して、日本鉱物科学会表彰を授与する。
 2. 会員は、個人あるいは連名で、鉱物学の普及あるいは本学会への多大なる貢献があった個人あるいは団体を、日本鉱物科学会表彰対象者あるいは団体として推薦することができる。その際、推薦理由を具体的に示した任意の様式の推薦書を事務局に提出する。推薦は随時受け付ける。
 3. 推薦があった場合、庶務幹事は直近の評議員会に提案し、多数決を持って授与の可否を決する。日本鉱物科学会表彰授与者あるいは団体には、総会において賞状を授与する。
5. 「他団体からの学会推薦依頼への推薦に関するガイドライン」について
(永井庶務幹事)
他団体からの学会推薦依頼への推薦に関するガイドライン(案)が提示され、議論の上、ガイドライン(案)については継続審議となった。各賞選考委員会が他団体からの学会推薦依頼に対する推薦者の選考に関与していく方向性は承認された。
6. 鉱物科学に関する用語検討結果審議(宮脇委員長)
昨年度、日本結晶学会がorthorhombicの訳語を「直方晶系(斜方晶系)」と決議したことへの対応として、鉱物科学に関する用語検討委員会による答申の内容を議論し、承認した。
7. その他
本学会での隕石名取扱いに関して提案があり、審議の結果、年会要旨集、年会での発表、学会誌においては、国際隕石学会で認められた隕石名のみを使用することとした。それに則って、GKK、JMPSの投稿規定一部改訂も要請され、各編集委員会で検討することとなった。